

研修報告書 No.2

研修先： 佐川町立高北国民健康保険病院
仁淀川町国民健康保険大崎診療所

私は、4月1日から26日まで高知県佐川町にある高北病院と、途中4日間、仁淀川町にある大崎診療所で研修をさせていただきました。2つの異なる医療機関での研修を通して学んだことを報告したいと思います。

まずは高北病院についてです。高北病院のある佐川町の高齢化率は、平成31年の1月の時点で38.4%と全国平均より高いです。高北病院には一般病床と療養病床合わせて、全病床数は98床あり、そのほか2箇所の診療所、介護老人保健施設、デイサービスセンター、デイケアセンター、居宅介護支援事業所が併設されています。研修では入院患者の診察を始め、病院内で働く他の職種について学ぶ機会がありました。

具体的には、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床工学技士、ケアマネージャーの方々のご指導のもと、各職種の普段の業務内容について学ばせていただきました。学生時代にも実習で他の医療職の方から学ぶ機会はありませんでしたが、研修医として医療現場で働き始めてから改めて学び、より一層他の医療職の仕事内容への理解が深まったと感じました。普段働いている大学病院での1年間の勤務で、日常業務の中で他職種と直接コミュニケーションを取りながら働く時と、そうではない時がありました。看護師や理学療法士と入院患者についてコミュニケーションを交わすことが多かった一方で、電子カルテ上でオーダーを出すことを通してのみ関わる職種もありました。直接コミュニケーションを取ることに少ない職種の場合、その職種の業務が見えにくいことから、どのようにしたら良いチームワークができるかを考える機会を持つことが難しいと感じたことがありました。今回の研修中に各職種の方々から仕事内容を伺うことを通して、他職種にオーダーを出す時に気をつけた方が良い点に気づくことができました。また、良いチーム医療ができるように、積極的に他職種とコミュニケーションを交わしたいと思いました。

その他、高北病院では訪問診療、訪問看護、ケアマネ訪問を通して在宅医療を見る機会がありました。特に印象に残っているのは在宅で人工呼吸器を付けている患者の所へ訪問看護に行ったことです。患者の妻と娘が日中も夜間も常にどちらかが交互に患者の側でケアをしているという話を伺い、在宅医療での家族（介護者）の役割の大きさを実感しました。在宅医療において主介護者は家族のため、患者のケアだけでなく、家族が日頃のケアで気になっていることに傾聴することが、医療者にとって大切であることがわかりました。

次に大崎診療所についてです。大崎診療所のある仁淀川町は高齢化率が約53%と、佐川町よりさらに高齢化の進んだ地域です。診療所にいらした方の多くが80歳以上で、90代の方もいらっしゃいました。仁淀川町の診療所は数が少なく、診療所に通院する方は町内を走

る循環バスで時間をかけて来られる方もいるそうで、医療へのアクセスが容易ではないと感じました。高齢で通院困難な方の場合は訪問診療に行くそうです。大崎診療所では常勤医師は1名で、夜間・休日を問わず、必要に応じてその先生が対応されていました。週に3日ほど応援の医師が他の病院から来るため、助かっているとの話でした。診療所では診療科の垣根を越え、生活習慣病の管理から外傷の処置まで、先生があらゆる疾患の対応をされていました。外来を見ていて印象に残ったことは、先生が患者さんの病気のことだけでなく、日常生活も含めて診ていたことです。地域の診療所では患者の医学面・心理面・生活面をトータルで見る総合診療が特に求められることを学びました。

1ヶ月間と短い期間でしたが、日々新たな学びを得ることができ、とても充実した研修をさせていただきました。本研修のコーディネートをしてくださった高知医療再生機構の職員の方々、研修でお世話になった高北病院と大崎診療所の職員の方々に感謝申し上げます。